

# 目次

## 29 卷頭言

- 吉川 左紀子
- 30 連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第15回 屋久島で調査をしよう…山極 壽一
- 32 連載「今日もOSARU日和」第5回 スローロリス、神様からの贈り物…竹下 景子
- 34 連載「生態学者が往く」第11回 南アフリカ・ナマクワランドの旅…湯本 貴和
- 36 連載「野生動物を遺伝子から見る」第6回 ウシの肉質遺伝子を探す…村山 美穂
- 38 連載「野生動物のおなかの中の秘密」第6回(最終回) 動物園の将来 飼育下繁殖個体の野生復帰…牛田 一成
- 40 連載「大型類人猿探訪」第18回 チンパンジーと「新しい生活様式」…林 美里
- 42 連載「ウマ学ことはじめ」第18回 パンデミックとウマの野外研究…パンドラ ピント
- 44 連載「自然と芸術」第15回 復顔師の仕事…戸坂 明日香
- 46 連載「海外生息地調査」第18回 リベリアの新しい調査地パラでくらす人々とチンパンジー…大橋 岳
- 48 連載「動物園・水族館だより」第9回 キリンの夜…山梨 裕美・高木 直子・斎藤 美保
- 50 連載「環境教育実践」第17回 多摩動物公園の動物解説員になって…若森 参
- 52 粪中DNAから探るキツネザルの味覚 糸井川 壮大
- 54 シャチの認知研究への挑戦 三田 歩
- 56 イベントのご案内・ご寄附のお願い

表紙 P52「糞中DNAから探るキツネザルの味覚」より ハイイロジエントルキツネザル  
撮影:糸井川 壮大(京都大学霊長類研究所)

# 卷頭言

## 吉川 左紀子 (京都芸術大学文明哲学研究所)

6月のある日曜日、京都大学のフィールド科学教育研究センター（通称フィールド研）が1年生向けに開講している演習授業（通称 ILAS セミナー）の一環として、京都市北区にある上賀茂試験地にフィールドワークにでかけた。

上賀茂試験地は、京都大学が所有する総面積47ヘクタールの見本林育成地で、松や竹を中心に、多種多様な樹木が植えられ植生の研究に役立てられている。参加したのは、4月に入学した複数の学部の新入生たちのほか、この授業に参加している多分野の教員数名の混成チームである。コロナの影響で4月からの授業はすべてオンラインになっていたため、この日はそれまでモニタでしか顔を見たことのなかった授業参加者の「生身の姿」に接する最初の日で、学生も教員もみな、わくわくしながらの樹木観察フィールドワークとなった。

上賀茂試験地には世界でも有数の松のコレクションがあり、約100種のマツ属のうちの80種以上が集められていることで知られている。戦後、日本に人工林を作るのによい樹種を探す目的で海外から多様な樹種が集められた経緯があり、現在も樹木園、見本林園として研究に活用されている。

フィールドワークの道すがら、かねてから抱いていた疑問について徳地直子センター長に尋ねてみた。「最近相次いでいる大雨による土砂崩れの被害は、戦後、杉やひのきの人工林を作り続けたのが原因でしょうか。」

「人工林は針葉樹が多く、そうでないものは広葉

樹が多いのですが、広葉樹でも根はそんなに深くないので、土砂崩れは起こります。なので人工林だから地盤が脆弱というわけではないですね。地面のどの深さから崩れたか、ということを見て判断することが必要です。根が入りこめない、非常に深くかたい部分での崩れはそもそも仕方ないというもので、大規模に崩れるのはこちらが多いですね。ただ、人工林は木の密度が高いので、地上部が重くなつて浅い部分での土砂崩れの原因になることがあるかもしれません。」

こんな会話をみなで交わし合いながら、アップダウンのある試験地での樹木観察フィールドワークの2時間ほどを満喫した。

上賀茂試験地は、平日であれば門のところに置いてある記名帳に氏名を書くだけで、誰でも入ることができます。3密になることもないから、天気の良い日の午前中などに、散策を楽しんでみることをお勧めしたい。運が良ければ、近隣に生息する野生の二ホンザルに遭遇することができるかもしれない。



吉川 左紀子  
よしかわ さきこ

瓜生山学園京都芸術大学副学長・同大学文明哲学研究所所長。京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授。京都大学こころの未来研究センター初代センター長(2007-2018)。専門は認知心理学。研究テーマは、顔・表情認識、対人コミュニケーション。